



MINOR 25 Offshore

ワークボートというスタイルがある。家族や仲間でクルージングや釣りを楽しみ、週末を海で過ごすための、使い勝手のいいミドルサイズボート。後傾したフロントウィンドウが見せるタフでクラシックな趣きに、ウッドを多用し、落ち着いたたくろぎを演出するインテリア。そして重厚なハルが生み出すソフトな走り。誰かと競うのではない、真に自由なボートの楽しみ方がそこにはある。今回は、凍てつく氷の海をも渡る性能を誇るフィンランドの「ミノア 25 オフショア」を紹介しよう。

text: Shoichi Usami

photo: Kai Yukawa, Makoto Yamada

special thanks: OKAZAKI YACHTS

<http://okazaki.yachts.co.jp>



Toughness from FINLAND



「すべてのシーズン、季節や天候に関係なく」 自然を楽しみ家族を大切にする、北欧ならではのボート哲学

ヨーロッパの地図を広げると、ドイツとその東側のポーランドの北側に、北海からつながる巨大な内海が広がっている。ヨーロッパ大陸とスカンジナビア半島に囲まれたバルト海。そのバルト海の北東に位置するのが、今回紹介する「MINOR (ミノア)」のふるさと、フィンランドだ。

ミノアは1967年、フィンランド中部西岸のOstrobothniaに生まれた。バルト海の奥部、Ostrobothnia地方はもともと造船業が盛んなエリアで、SarinファミリーはこのOstrobothniaで初めて、モーターボートを専業とするビルダーとしてSarin boatyardを興す。以来現在まで、Sarinファミリーは3代にわたって、Kokkolaと

いう街を拠点にミノアボートを製造している。

現在のラインナップは、スターンドライブの「オフショアシリーズ」が25、28、31、34、37の5モデル。シャフトドライブの半滑走艇「WR」シリーズが21、25、27、34の4モデル。これら9モデルのプロダクションと、沿岸警備隊をはじめとするプロユースのカスタムモデルを生産している。このプロユース艇はミノアの大きな特徴と言える部分で、年間生産台数が数十台という家族経営のビルダーながら、ドイツ沿岸警備隊をはじめ、ヨーロッパ中でパトロール艇として高く評価されているのだ。プロダクションモデルにおいても、ミノアが提供するボートはすべて、ユーロ圏が定めるCE基準の



「B-Offshore」レベル。これは「ビューフォースケール 8」(34 ~ 40ノット、17.2 ~ 20.7m/s)の風、波高にして4mの有義波にも十分耐えるもので、サイズを超えたこの高い耐航性、凌波性こそ、ミノアボートが自身に課した最低条件と言える。

ボンツーンにたたくミノア 25 オフショアは、独特の存在感をもって我々を待っていた。フィッシャーマンやスポーツボートにあるようなアグレッシブさは微塵もない。25フィートというサイズに、後傾したフロントウィンドウを持つ立派なキャビン。小柄だがノッポなそのスタイルは、どこから見ても「可愛げのある」ボートだ。

ガンネルをまたぎ、サイドから乗り込む。どこもかしこも、しっかりとした造り。コーミングに守られ、アフトからバウまで段差のないノンスリップデッキは、たとえ大きな保温ブーツを履いた足でも不用意につまずくことはないだろう。コックピット後端には太いステ

ンレスパイプのゲートが設けられ、チーク張りの洒落たスイミングステップが、家族を優しく招く。しかもこのスイミングステップは、チークデッキを持ち上げればドライブに簡単にアクセスできる。プロペラに何か絡んでも、いち早く安全に対処できるのだ。

キャビンへのアクセスは左右両側のスライドドアから。建て付けの良い丈夫なドアの内側にあるウッドノブは、同素材のウッドロックを備える。キャビンはネイビーブルーのスエードと、明るいチークの配色が見事。ぼってりと厚く質感が高い2脚のドライブシートは、同色のU字型ソファと、収納式のセンターテーブルが占める。シンプルながら実にお洒落。ボートの楽しみ方を知り尽くした造りだ。キャビンの壁は簡素なクロス張りだが、天井はスウェード張りでウッドのハンドレールも装備。さらに、ほぼフルオープンになる天井スライドハッチや、はめ殺しではないスライド式の





キャビンリアウィンドウなど、使う者の立場に立った「本当に必要な装備」に、惜しむことなく手間とコストがかけられている。

225馬力を発揮するVOLVO D4エンジンに火を入れる。遮音製に優れた頑丈な船体に最新のCOMMON RAILディーゼルとあって、キャビンは非常に静かだ。ステアリングの目の前は電子航海計器。タコメーターと電圧などのアナログメーターは頭上のウッドパネルに収まり、インテリアのアクセントにもなっている。港外に出てスロットルを押し込むと、3トンに満たない船体を225馬力が力強く押し出す。十分すぎるパワーに、スターンドライブならではの軽快なハ

ンドリング。剛性感の高いハルは、何のストレスも感じさせることなく、実に素直に海面を割っていく。2,300回転25ノット、2,800回転では約28ノットをマーク。意味もなくターンをしたくなるほど、楽しい乗り味だ。室内は落ち着いたものだが、外から見ればきっと、相当のじゃじゃ馬ぶりと見られているだろう。思わず笑みがこぼれる。

ところで、Sarinファミリーはなぜ、自分たちの造るボートに「MINOR（ミノア＝英語読みではマイナー）」という名を付けたのだろうか？ これはフィンランドのOstrobothniaに生まれた者の気質を端的に示している。「優れた何かを創る者は、決して

大口をたたかないものだ」。Sarinのこの言葉に我々は、自然と家族を愛し、技に厳しい、フィンランドの老船大工の姿を思い浮かべる。「不言実行」、そして「質実剛健」。スオミ（Suomi＝フィンランド）の人の感覚は、日本人のそれと通じる部分が多いと聞く。「MINOR」というボートにもまた、我々日本人を強く惹き付ける、サイズを超えた大きな魅力があった。**P.B.**



趣味の良いインテリア。厳しい気象海象に耐えられるよう、あらゆる部分がシンプルで堅牢さを極めた造り。丈夫なハルはもちろん、壁や天井にまで断熱材が巡らされ、凍てつく長い夜にも家族が安全に過ごすことができる居住性を実現している。パワのVバース、個室ヘッド、ミニキッチン、家族で一夜を過ごすにも十分。貴重な太陽の恵みと豊かな自然を楽しむ、仲間との楽しい海の時間を大切に。それが北欧流のスタイルだ。VOLVO D4 225馬力+スターンドライブの走りは、楽しさも満点。

SPECIFICATIONS . . . MINOR 25 Offshore

- 全長 7.75m
- 全幅 2.70m
- 喫水 1.00m
- 重量 2,900kg
- 燃料容量 300L
- 清水容量 30L
- エンジン VOLVO D4
- 最高出力 225HP
- 本体価格 13,955,000円（税別）
- 問い合わせ先 オカザキヨット
- TEL: 045-770-0502
- <http://okazaki.yachts.co.jp>